

## ニューズレター

No. 35

### ご挨拶

広島支部支部長 小篠敏明

このたび、図らずも広島支部支部長をおおせつかりました。浅学非才の身ではありますが、皆様のご協力を得て責を全うする所存です。よろしく願いいたします。

広島支部は現在喫緊の課題を抱えています。まず第一は、支部活動の活性化です。特に若手会員にとって魅力的な会の活動にしたいと思います。具体的には、若い会員を中心とした勉強会や共同研究体制を構築したいと思います。これらの活動を通じて、より生産的でより魅力的な支部活動にできればと念じています。

第二にこれまでの研究の集大成を図りたいと思います。広島支部は多くの優秀な研究者を擁し、質・量共に研究の最先端にあると自負しています。これらの研究の成果をデジタル資料として集成し、後世に残すのは支部の大切な仕事であると考えています。

第三に、支部活動を中四国全域へと拡大したいと思います。その一環として、12月に松江市で小泉八雲研究を中心とした例会を開く予定です。

皆様方のご支援をお願い申し上げます。



### 平成 15 年度支部総会及び第 1 回支部例会開催

去る 5 月 31 日 (土) 本年度総会と第 1 回 (通算第 48 回) 例会が広島市の安田女子大学で開催された。講演 1 件と研究発表 2 件が行われ、実り多い研鑽の集いとなった。大会のプログラムは次の通り。

\*\*\*\*\*

#### 平成 15 年度第 1 回 (通算第 48 回) 研究例会

\*\*\*\*\*

日時 平成 15 年 5 月 31 日 (土) 午後 2 時 ~ 5 時

場所 安田女子大学 7 号館 4 階 7405

(〒731-0153 広島市安佐南区安東 6 丁目 13-1 TEL 082-878-8111 代)

役員会 (12:00 ~ 13:30)

会場受付 (13:40 ~)

開会挨拶 (14:00)

役員会報告

## 研究発表

### 1 「明治・大正・昭和初期の英語教科書の計量的分析」

	広島県立大学	馬本 勉
	安田女子大学	松岡 博信
	広島県立保健福祉大学	本岡 直子
司会	ノートルダム清心女子短大	山本 勇三

### 2 「第2言語習得の条件 B. H. Chamberlain に学ぶ」

	福山大学	次重 寛禧
司会	広島大学	田中 正道

## 講演

### 「英語授業12の事例 - 広島英語教育史より - 」

支部長 松村 幹男

## 懇親会

会場 笑笑（わらわら） / 広島駅前店（082-262-9088）

（〒732-0822 広島県広島市南区松原町10-32ダイエー横）

## 日本英学史学会広島支部役員会報告

研究例会に先立って、12時～13時30分に支部役員会が開催された。出席者は12名であった。報告事項は以下の通りである。

### 議 題

#### 1 役員改選について（前回のつづき）

前回（3月29日）の役員会に引き続いて、平成15・16年度の支部役員改選が行われ、以下の通り決定した。

#### 平成15・16年度広島支部役員名簿

支部長	小篠 敏明						
副支部長	田中 正道	竹中 龍範					
顧問（相談役）	定宗 一宏	妹尾 啓司	寺田 芳徳	松村 幹男			
顧問	五十嵐二郎	植木松太郎	神鳥 武彦				
理事	上杉 進	河口 昭	多田 保行	田村 一郎			
	能登原昭夫	野村 勝美	深澤 清治	風呂 鞏			
	松岡 博信（会計担当）						
事務局長	馬本 勉（紀要担当）						
会計監査	山本 勇三	鉄森 令子					

#### 2 次回開催地（12月）の候補について

いくつかの案が出され、本年12月6日あるいは13日に島根で開催することが提案され、了承された。お世話は、風呂鞏先生（理事）にお願いすることとした。

#### 3 本支部の研究活動推進について

今後の支部としての活動を盛り上げていくために、主として

- 1) 若い研究者を集めること。
- 2) 研究の間口を広げること。
- 3) 専門性を高めること。

の3点が課題として出された。そのために、支部会員の著書・論文を紹介したり、課題別研究を作ったり、情報交換を通して先行の学問研究に対抗できるものをめざして行く必要があることが確認された。

#### 4 その他

報告として、松岡博信理事（会計担当）より会計報告があり、引き続き風呂鞆・山本勇三両理事による会計監査報告が行われ、了承された。

また、馬本勉理事（紀要担当）より紀要の出版に関する報告があり、現在、鋭意印刷中であり、まもなく会員に届けることができる旨、報告があった。

深澤清治（広島大学）

## <<研究例会レポート>>

### 明治・大正・昭和初期の英語教科書の計量的分析



近年、コンピュータの普及に伴い、テキストを計量的に扱う研究が増えている。英語教育においては辞書編纂のためのコーパス作成、学習者コーパスの作成など野心的な研究が行われている。

本発表では19世紀から20世紀初頭において日本で使用された以下の英語教科書を比較・分析した。

- 1) Sanders' Union Readers (1861-63)
- 2) New National Readers (1883-84)
- 3) English Readers: The High School Series (1887)
- 4) 『正則文部省英語読本』(1889)
- 5) The Globe Readers (1907)
- 6) The Standard English Readers (1926-27)
- 7) The Standard English Readers (1932)
- 8) New Jack and Betty: English Step by Step 1, 2,

3 (1952), New High School English

9) Sunshine English Course 1, 2, 3 (1996),  
Sunshine English Course 1, 2 (1997)

以上の教科書について、1) 語彙（各 Book 毎の総語彙数、累計総語数、Book 毎の異語数、累計異語数、Book 毎の Type/Token Ratio（総語数に対する異語数の比率）、累計 Type/Token Ratio、各 Book の新語数、各 Book の新語に対する既習語比率）、2) リーダビリティ（Flesch Reading Ease および Flesch-Kincaid Grade Level を使用）、そして、3) 構文・文法（Passive sentence、主格関係代名詞）が調査された。

調査の結果、各教科書とも基本的にグレードが進むにつれて、異語率が上昇していること、また以前から内容が読みにくいという評価のあった教科書はリーダビリティが適切に設定されていないなどの指摘がなされた。また Sunshine などの最近の教科書では、使用される語の反復頻度が低下していることが論じられた。

これまで教材の評価は教師の経験知に基づいて行われることが多かった。しかし、技術の進歩により、この経験知を共有可能な形で論じることが容易になってきている。本発表はこの点で非常に意義ある提案をしており、今後もこのアプローチを見守っていく必要があるだろう。

平本哲嗣（安田女子大学）

## 第2 言語習得の条件 B.H. Chamberlain に学ぶ

次重先生（福山大学）のご発表から



本発表は、日本語・日本文化に精通していたチェンバレン(1850-1935)を通して、第2言語習得の条件を示唆するという発表であった。チェンバレンに関する多くの歴史的な史実とさまざまな言語習得の仮説とを結びつけながら説明され、チェンバレンという一人の人物と日本との関係を示すと同時に、彼のような言語習得が可能になる第2言語習得の条件を示された。

まず、チェンバレンの略歴の紹介をされた。主に、日本滞在に関連したさまざまな関連事項を列挙され、チェンバレンと日本との関係をわかりやすく説明された。この略歴紹介は、チェンバレンがいかに日本の生活に早く深く溶け込んでいったのか、よく理解するための第一歩となった。

次に、チェンバレンの卓越した日本語力を、聞き話す日本語の観点と読み書く日本語の

観点から、さまざまな文献資料を用いて紹介された。聞き話す日本語力の紹介においては、岡倉由三郎や佐々木信綱など、多数の文献からの紹介で、チェンバレンの日本語力がよくわかると同時に、チェンバレンの当時の日本人との交流がよく示されたものであった。また読み書く日本語力の紹介においては、俳句や、翻訳した「キサ・ゴタミの話」など、詳しいレジュメで紹介され、チェンバレンの日本語能力の深さと同時に、日本文化における教養の深さも非常によくわかった。

さらに、チェンバレンに見る日本語習得を可能にした条件を、詳しい資料を示しながらまとめた8点で述べられた。

最後に、まとめとして、先に述べた、チェンバレンが卓越した言語能力を獲得した背景8点を、第2言語習得の条件をさまざまな仮説と結びつけながら説明された、チェンバレンという一人の人の語学力や背景を通して、より高い第2言語能力の獲得への示唆を示された。

よく言われているさまざまな第2言語能力獲得の仮説が具体的にチェンバレンにおいて具現化しているということが感じられ、英学史研究と現在の英語教育とを結びつけた、切り口の斬新な非常に興味深いご発表であった。

本岡直子（広島県立保健福祉大学）

## 松村幹男先生のご講演を拝聴して

授業実践史へのアプローチ

「英語授業12の事例 広島英語教育史より」というタイトルの示す通り、英語教

育史研究の領域において、広島の地で実践されてきた授業がどのような変遷をたどって

きたか、具体的な資料を豊富にお示しくださっての大変興味深いご講演であった。



1. 明治期の英語授業事例： 明治 23 年に慶応大学出身の木村時之進が山県高等小学校にてナショナルリーダーを教えたという記録。 英和女学校における明治 23 年頃の、ゲーンズ女史の英語授業風景をスキットにて再現。(ドラマ化された原稿をもとにして) 広島高師の英語発音授業 オックスフォード大学で H. Sweet の発音学講義を聴講した杉森此馬、ロンドン大学でリップマンの発音学講義を聴講した永野武一郎等、明治 30 年頃にして世界レベルの講義を受け、日本において教授されていたこと等。

2. 大正期の英語授業例： 呉中学校に大正 10 年に赴任してきた田中菊雄の徹底した教材研究を行った授業の紹介など。

3. 昭和期戦前の英語授業例： 昭和 2 年に広島女学院において教員歴 2 年の芝間タズの英語授業をパーマーが絶賛した。

4. 昭和期戦後の英語授業例： 松村先生ご自身が作成された市立国泰寺中学校の週案のご紹介。 広島大学教育学部にて LL 授業開始、 - 広島における最初の LL は庄原格致高校であった。等、他にもたくさんの事例を紹介された。

ご講演を拝聴しながら、松村先生からのご指導のお言葉を思い出していた。

「研究とは、すぐに解答がでるものではありませんよ。この 20 世紀の時代にロケットで月までいけるなんて 150 年前のライト兄弟は想像していたのでしょうか？ 今は不可能だと思える月旅行も私達の子孫の代には実現するかもしれません。私達が行っている英学史や英語教育史の研究も同様に、これからの研究の礎になればいいのです。」(大意)

現代の英語教育の問題点は過去の英語教育を学べばすぐに得られるはずだと思っていた私は自分の傲慢さを恥じた。そして、この広島の英学史学会にてご指導をお受けできることを感謝した。

どうもありがとうございました。

鉄森令子(大日本ヲグ -ジ ャフ)

## <<広島支部ニュース>>

### 『英学史論叢』発行と原稿募集について

『英学史論叢』第 6 号が発行されました。例年よりも遅れましたことをお詫び申し上げます。編集者はバトンタッチしましたが、竹中先生には引き続き印刷のお世話を頂きました。厚くお礼申し上げます。早速ですが、次号第 7 号の刊行に向けて、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。研究論考、英学史随想、英学史時評、書評等、多数のご応募をお願いいたします。送り先は事務局まで。締切は今年度末の予定です。詳しくは『英学史論叢』の執筆要項をご参照下さい。

## 会費納入について

平成 15 年度分の会費 3,000 円を郵便局の振込用紙にてご納入いただきますよう、よろしくお願いいたします。なお、すでに今年度分を納入いただいている方には振込用紙を同封しておりません。行き違いがございましたらご容赦ください。

郵便振替口座	01360-9-43877
加入者名称	日本英学史学会広島支部

## 会員名簿の送付について

前事務局長の深澤先生のご尽力により、平成 15 年度会員名簿が出来上がりました。今回から e-mail アドレスを掲載しました。記載事項に追加・変更等ございましたら、事務局までお知らせください。

## 日本英学史学会報 No.100 別冊の送付について

日本英学史学会本部より、会報 100 号を記念した別冊が発行されましたので同封いたします。なお、本年度の第 40 回日本英学史学会全国大会は、平成 15 (2003) 年 10 月 4 日 (土) ~ 10 月 6 日 (月) 熊本市の崇城大学を会場として行われます。全国大会ならびに学会本部・各支部の活動に関するお問い合わせは事務局まで。

<<広島英学史の周辺>> 研究室の窓の外から虫たちの合唱が聞こえてきました。例年より涼しい 7 月、このまま秋が来て欲しいと願う日々です。事務局担当を拝命して、早一ヶ月半が経とうとしています。本学会と関係の深い日本英語教育史学会の全国大会は、藤井昭洋大会会長、竹中龍範実行委員長のもと、香川大学において 5 月 17 日 ~ 19 日に開催されました。香川大学の神原文庫および竹中先生のご蔵書の展覧に始まり、松村幹男先生の研究発表で幕を閉じた活気ある大会でした。同時に発刊された『日本英語教育史研究』第 18 号には、竹中龍範「小学校の英語 商業科附設の時代」が掲載されています。英学に関わる本の紹介(広島限定ではありません)。斎藤兆史『日本人に一番あった英語学習法』(祥伝社, 2003)、同『英語達人塾』(中公新書, 2003)、いずれも英学史でお馴染みの先達から学ぶ英語学習法の指南書です。後者の「英語学習を軽々しく論じるな」には、身の引き締まる思いがします。(日本語の孝さんとともに、斎藤ブームはいつまで続くのでしょうか。) 三熊祥文『英語スピーキング学習法 E.S.S.スピーチ実践の歴史的考察』(三修社, 2003) は、日本における英語スピーチの歴史的考察と現代教育学的解釈を論じた博士論文。林 洋和『英語の語彙指導』(溪水社, 2002) は歴史を扱った本ではなく、英語教育史に残る好著。外山滋比古『ユーモアのレッスン』(中公新書, 2003) は、さすが英学の「気」が一杯。英学史からは遠くなりますが、清水義範『行儀よくしろ。』(ちくま新書, 2003) は「私たち」好みの本です、きっと。文化について考えさせられます。慌てて「広島」を冠したこのコラムの見出し。そう言えば『英学史の周辺』は手塚竜磨先生のご著書のタイトルでした。次回の研究例会は 12 月 6 日(土) 島根県松江市で開催されます。広島支部の新たな歴史を刻む例会にぜひご参集ください。詳しくは次号にてお知らせします。山に囲まれたここ庄原の地に英学校が誕生したのは 120 年前。寺田芳徳先生の大著をひもときながら、備北の地に息づく英学の香りに浸っています。庄原発のニューズレター、どうぞよろしくお願いいたします。(馬)

日本英学史学会広島支部ニューズレター No.35

2003 年 7 月 15 日発行

発行 日本英学史学会広島支部(代表 小篠敏明)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 562 番地

広島県立大学 経営学部 英語研究室内(馬本 勉)

電話: (08247) 4 - 1725 (研究室直通)

fax : (08247) 4 - 0191 (広島県立大学事務局)

e-mail: umamoto@bus.hiroshima-pu.ac.jp